

協働のまちづくり協議会（第2回）議事概要

平成28年度 協働事業・市民活動助成事業 事業成果報告会

《日時》 平成29年5月14日（日） 13時30分～17時
《場所》 松戸市役所 議会棟3階 特別委員会室
《委員》 犬塚 裕雅 会長、坂野 喜隆 副会長、長江 曜子 委員、
文入 加代子 委員、牧野 昌子 委員、杉浦 利彦 委員、
江藤 政継 委員、山崎 年也 委員、門 良英 委員
《傍聴者》 6名

- 1 開会
- 2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 諸注意等
- 5 報告および質疑応答

質疑応答

①＜空き家利活用等相談事業＞について

団体名：特定非営利活動法人 空き家安全管理ネットワーク

担当課：住宅政策課 空家活用推進室

- 委員 講演会を当初3回計画されていたが、2回開催となったのはなぜか。併せて、解決したモデルの報告はされたが、その他の具体的な相談内容を教えてほしい。
- 団体 セミナーを開催するにも、テーマや講師選定などの準備が必要である。担当課も業務多忙のなか、協力いただき形を作った。団体だけなら、急にセミナーをやろうという感覚で出来なくはないが、会場の確保・広報等で、1、2ヶ月掛かり、結果として2回となった。相談内容は、特異なものとして、非常に大きな物件を所有しているので、「何か活用したい」と相談されたのだが、具体的には「貸す気がない」というものがあった。
- 委員 成果について、団体も担当課もふりかえりシートのQ1「計画時に設定した成果目標が達成できましたか。」に対し、双方とも5段階評価で2となっているが、何か評価が2となる要素はあったか。
- 団体 解体の事例があったが、壊すのではなくてシェアハウスなどで、在るものをそのまま使う例が、2、3件でもあると良かったという思いがあり、そのような評価となった。

質疑応答

②<地域連携自主防災事業>について

団体名：栗ヶ沢中学校地域防災委員会

担当課：危機管理課

- 委員 地域住民の方など、色々なところで連携をされているが、具体的に今後、企業と連携される予定はあるか。
- 団体 団体の目的は、避難所運営と要配慮者に対する救護に限られており、それらの事業に対し、企業などに参加して頂ければ非常に嬉しいが、積極的な姿勢を見せていただくことはなかなか難しい。
- 委員 本事業が松戸市内の他の町会・自治会等に波及するということを希望としているが、今までに他の町会・自治会等から問い合わせ等あったか。
- 担当課 危機管理課へ問い合わせがあり、他の地域でも活動内容や団体の話をさせて頂いている。
- 委員 講演等されているかと思うが、その辺の動きがあれば教えてほしい。
- 担当課 当団体は町会の垣根を越えた組織運営が魅力的で、他の地域でも連合町会として関わっているところがあり、その連合町会へは本事業のような取り組みをしてはどうかと、ご提案している。
- 今後、色々な形でお問い合わせ等あるかと思うが、担当課としても得た情報を地域に出し、地域の繋がりを防災の視点から強めていければと考えている。

質疑応答

③<講演会を軸とした協働啓発事業>について

団体名：特定非営利活動法人 まつどNPO協議会

担当課：市民自治課

- 委員 講演会は11月28日（月曜日）に開催されたということだが、多くの一般市民に参加を呼びかけるなら、土曜日か日曜日の開催が良いと思う。市職員が25名参加だが、参加した職員は休みを取って参加しているのか、仕事として参加しているのか教えてほしい。
- 担当課 市職員は公務で研修として参加している。
- 委員 参加者の前年度比と、人数的な増減を教えてほしい。
- 併せて、今後の広がりをごどのように考えているのかを教えてほしい。
- 団体 参加者の前年度比の推移は、昨年度は79名。内訳は市民が27名、行政職員が52名。今年度は88名。内訳は市民が63名、行政職員が25名。月曜日が週休日の担当課もあり、市職員の参加は伸び悩んだ。他方、市民の方は前年度に比べ、2倍以上参加があった。今後の広がりについては、より団体の参加を促していきたい。勿論、協議会の会員内外に広く呼びかけていきたい。
- 会長 市民活動インタビューについて、WEB情報マガジンという実験的な取り組み

をされ、新しい情報提供の道筋に見ることができたが、一方でインタビュー件数が5件。WEBの持っている情報の拡散力を充分活しきれていないという印象を受ける。課題でも知名度の向上とあるが、実際のインタビューの本数はどう考えているか教えてほしい。

団 体 インタビューの本数は、増やしていく必要があると認識している。一方で団体との日程調整をし、活動現場でまとまった時間を頂き、かつ記事をまとめることは、なかなか労力が必要である。今後、考える必要はあるが、サポートセンターの登録届出団体等にもインタビューの範囲を広げ、平成29年度のなかでインタビューを進めて行きたい。

質疑応答

④<「カレーを食べる会」事業>について

団体名：五番街ふれあいセンター

委 員 個別の相談も出てきたということだが、どのように対応されているか。専門的な話題になった場合など、今後の方針を教えてください。

団 体 まずはその方の家に行き、困りごとを聞き、制度と結び付けられることであれば、地域包括支援センターへ一緒に伺い、手続きを一緒に進めていくなど、アドバイスをすることが多い。スタッフと話をしていくうちに色々な相談が出て、「カレーを食べる会」事業を中心に、ヘルパー経験者の方に相談したり、地域包括支援センターに相談するという橋渡し役である。

委 員 非会員の方々を見守ることを検討されているが、非会員の方は声掛けしても出てこないと思う。また、声掛けの対象者ではない方々への接触の仕方は、どのように考えているか。

団 体 住民台帳があり、昨年度更新して75歳以上の単身、夫婦をピックアップし、見守り台帳に移し、民生委員を中心に一軒一軒回り、活動の説明や声掛けをして、どのような人が居るか把握している。ベースに住民台帳があることが大きいと思う。

委 員 同じ新松戸地区のマンション群から、「カレーを食べる会」事業を見学など、年間を通して何件くらいあるか。

団 体 毎月1回の活動だが、必ず何人か見学にいらっしゃる。前任の町会長が、新町会長に引き継いでくれたりする。

質疑応答

⑤<「認知症に備える」為の啓発活動事業>について

団体名：介護・認知症の家族と歩む会・松戸

委 員 放送大学の取材を受けたとあるが、どういうことを取り上げられたか教えてください。

団 体 放送大学では、大きく3パターンあった。施設の職員が辞めたいと相談してき

た時の対処法。夫婦間で親の施設入所の話がまとまらない。逆に施設に入れると親戚などから嫌がらせを受ける。一番問題なのは、虐待をしているなどの相談を受けたことである。シェルターを幾つか持っているが、シェルターはオープンに出来ないため、個々で内緒に使ってもらっている。

委員 報告書では、1日置きくらいに小さな単位で、お喋りサロン・講座を開設されている。数多く行うことが大変な活動だと思うが、この先、どのようなことを考えているか。

団体 相談会といっても、答えは家族で出してもらうこととなっており、世話人が全てやるのではなく、各地域で重い認知症を乗り越えた家族がキーマンになって活躍されているので、マンションの一室でも出来るということが増えている。会の世話人は7~8人だが、声を掛けると、松戸市内で約25人の方がいる。

委員 「手賀沼春夏秋冬」（三世代交流）という活動の内容を教えてください。

団体 メンバーの中に写真愛好家があり、その写真を見てもらい、そこから接点が生まれたり、白鳥という言葉がキーワードになったりして、そこから行動が広がりお話を頂くと、その後、家族へと発展できれば良いと考えている。手賀沼を地域のシンボルとして捉え、それをPRする目的で活動している。

質疑応答

⑥<健常児・障がい児ミックス型共育を楽しむ事業>について

団体名：共育ステーション 地球の家

委員 参加者の人数は、健常者と障がい者の区別をしていない書き方だが、その度に人が変わるのか、同じ人が継続してやっているのか教えてください。

団体 参加者へハンディキャップの有無の質問事項を設定していないため、ハンディキャップのある方のご家族の参加割合は把握していない。障がい名が無く、グレーゾーンのお子さんも参加され、会場中でパニックを起こす方もいた。テーマごとに興味を持たれた方が、毎回違った顔ぶれで参加していた。

委員 可愛らしく分かりやすいパンフレット600部はどんな所に配布されて、その反響や問い合わせはいかがだったか。

団体 イベントに来た方を中心に配布したのと、ふれあい22や市内の子育て広場に設置したり、知り合いの飲食店へ設置した。また、子育て中の母親達が作っていく「手作りの居場所」ということで、取手市において「居場所作り」の講師として、招いて頂いたときにも配布して、わかりやすいパンフレットで良いと言って頂いたり、共育というところで共感するという感想を頂いた。

委員 市内の保育施設、幼稚園、特別支援施設など、それぞれの学校単位でパンフレットのPRをすると行き渡ると思う。

質疑応答

⑦<子どもと高齢者の交流事業>について

団体名：子どもの未来を考える会

- 委員 高齢者の位置づけというのは、ボランティアやお手伝いという考えか、それともスタッフをやってもらっているのか。
- 団体 ボランティア登録されている方や、賛助の方などである。
- 委員 一人暮らしの高齢者を誘うなどという、特別な考えはないか。
- 団体 「元気応援くらぶ」の方が、高齢者の居場所活動ということで、その中には、一人暮らしの方は、大勢いらっしゃる。
- 委員 実際に馬橋小学校、特に教育委員会の協力を受けて活動されているということだが、小学校の総合的学習という時間を利用してやっているか。
- 団体 総合的学習の時間に是非参加したいということは、校長先生にお願いしているが、未だお誘いが無い状態である。
- 会長 顔見知りの子ども達なのか、ここに来て初めて知り合った子ども達なのか、子ども社会の様子を教えてほしい。
- 団体 学校の休み期間中に、母親が外出したいので預けたいと個々に来られた方もおり、子ども自身が友達を見つけられず、戸惑っている場面もあったが、そういう子どもには塗り絵など、すぐに取り組めるような遊びに誘うことで、徐々に他の遊びにも入って行けるという姿も見られた。
- 会長 学区的にも同じ学校の子ども達ばかりではないか。
- 団体 学区が重なっている状態である。
- 会長 そこで子ども同士が、はじめて出会うということもあるか。
- 委員 夏休みは、子ども達はリピーターが多かったか。
- 団体 夏休みは、2回続けて来られたのは18人位であった。

質疑応答

⑧＜公共サインの改善で松戸の街並みをレベルアップする事業＞について

団体名：都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会

- 委員 松戸市都市計画課と打合せされているようですが、東葛飾土木事務所や、国の担当機関との連携状況を教えてほしい。
- 団体 今年度以降の活動として、公共サイン単体に着目するのではなくて、公共サイン・街路樹・ベンチ等を一体的に考えていくと、松戸らしい展開があるのではないかと思っている。そのためには、東葛飾土木事務所などとの連携は必須と思っている。
- 委員 市民向けの講演会内容は、横浜市の公共サインをデザインされた方に来て頂いたということだが、市民参加が6名というのは残念な数字だと思うが、告知等々はどのようにされたか。
- 団体 講演会の参加者が6名という少人数になった点については、多くの反省点がある。理由としては、会場の決定が遅れたため、ポスターの掲示、広報まつでの告知が開催日の直前になったことが一番の問題だと思う。講演会は岩瀬自治会館で開催し、参加者と研究会のメンバーも色々と話すことができた。今年度

以降の活動を広めていくためにも、もっと多くの市民の方と話をしていく必要があり、私たちも学生の立場ではなく市民活動団体としての自覚を持っていく必要があると思う。

委員 観光協会とあるが、調査をしてみてもどうか。私も文化観光国際課の方々と一緒に調査をしたことがあるが、是非市と協働で、さらに大きく広めて頂ければと思う。協働事業として都市計画課と連携すれば、各種行政との連携も調整してもらえるとと思う。

質疑応答

⑨<認知症を吹き飛ばせ！健康寿命を延ばそう事業>について

団体名：介護予防と認知症サポートの会「しゃぼん玉倶楽部」

委員 地域密着型とあるが、これは六実地域か。

団体 六実・六高台が地元なので、六実・六高台地域である。

委員 同じような活動をしている団体はあるか。もしあれば、そちらの方との連携など、活用を教えてほしい。

団体 今年は、他のグループとの協働は出来なかったが、後半は時折イベントを行い、関係者の方で講師にふさわしい方をお招きして行ったので、協力は出来ている。

委員 コグニサイズとは何か。

団体 愛知県にある国立長寿医療センターの先生が提唱している、頭と体を使う認知症予防に効果があるといわれている体操である。

委員 イベントの参加者はものによっては少ないが、今後できるだけ参加者を増やすための工夫を教えてほしい。

団体 町会の組織に加えて頂けたので、回覧板・役員会等を通じて、常にアピールも出来ると、町会長からも言って頂けたので、チラシも作成しながら配布していきたいと思う。

会長 今回、やってみて良かった点はあったか。

団体 「呼び寄せ高齢者」といって、地方の両親を呼び寄せたが、地元で友人がいない、方言が通じない等で悩まれている方がいる、シニアサロンに来てくださった方も、そのような方が多く、このような会を通じて、友達作りをしたいという声が多く聞かれた。今年度も継続して、そういった方たちを支援していく。

質疑応答

⑩<医療・介護・福祉を学ぶ会事業>について

団体名：千葉県 東葛介護・福祉塾

委員 学ぶ会のターゲットは、他職種の交流も目指すという内容だったと思うが、Facebook だけの告知方法だったのか。対象者をどのように決めて、どのような告知方法だったのか教えてほしい。

団体 ターゲットは専門職の方もだが、助成を受けているため一般市民もターゲット

としてスタートした。一般市民向けの講演と専門職の方の講演とは内容が変わってくる点で、講師もどちら向けに講演したら良いかという指摘もあった。ターゲットという点では、もう少し考えるべきだったと思う。告知方法に関しては、当初市役所 1 階・市民センター等に設置したが、なかなか反響が無く、Facebook、地域新聞に掲載した。開催テーマ・雨の日等で参加者が 10 人程度ということもあったので、今後考えなくてはいけないと思う。

- 委員 認知症サポーター養成講座は、市の担当者との程度、協働されているのか。
- 団体 助成前は、新松戸いきいきセンターの所長さんに来て頂いた。
今回は、企業向けのため、事前に介護保険課へ相談させて頂き、日時・会場の用意が出来れば、来て頂けるという状況になっている。

質疑応答

⑪<河原塚史編纂事業>について

団体名：河原塚史編纂委員会

- 委員 今後の活動方針を教えてほしい。せっかく本にされたので、市内で話を聴きたい人が沢山いると思う。苦労話やアドバイスなどしてほしい。
- 団体 そういう機会があれば積極的に行きたいが、こちらから売り込むことはすぐわないので、要請されるのを待っている。例えば、まつど市民活動サポートセンターから、活動のきっかけ等を話して欲しいと要請があり、2、3 時間話させてもらった。関心を持っていただき、河原塚まで来ていただく団体もいた。その他、やりたいと言っている町会もあるが、なかなか真似することは大変なようで、今後そのようなことがあれば、出掛けて行きたいと思っており、それが私達のやるべき仕事ではないかと考えている。
- 委員 100 冊を熊野神社に保管ということだが、年数の経過と共に忘れられることもあるので、講演会などの企画を立てていただければと思う。
- 団体 我々は今後も河原塚に住み続けるので、これからも色々なことをやって行きたいと思っている。講演会などの機会を自分たちも作るし、周りの方々も作って頂ければ、出掛けて行きたい。

質疑応答

⑫<「高校進学のための学力アップ教室」事業>について

団体名：認定NPO法人 外国人の子どものための勉強会

- 委員 今後も外国にルーツを持つ子ども達が増えていく中で、教える側、支える側も増えてきていると伺っているが、会として今後どのように考えているか。
- 団体 松戸では外国にルーツを持つ小学生は 300 人位いるそうで、毎年増加している。スタッフとしても人員等大変だが、定例の教室を充実させたい。
- 委員 教える側のスタッフの技量も大切なので、定年退職された先生など、受験指導のプロにも参加してもらえると良いのではと思う。

団 体 そういう方も入ってくれており、知り合いにも声を掛けて頂けるようお願いしている。教えるプロとして経験がある方たちなので、今後もお願いを続ける。

質疑応答

⑬<地域連携による成年後見制度の普及・啓発・利用促進事業>について

団体名：認定NPO法人 東葛市民後見人の会

会 長 身体的な障がいをお持ちの方々の社会的評価がうまく定まっていなく、そこが壁になっているということだが、自分たちの団体だけで取り仕切るというより、色々な人達の力をどのように集めて、社会的評価を固めていくのか、何か作戦があれば教えてほしい。

団 体 妙案は無いが、地道にやっていくのが基本的だと思う。各種団体との連携を深め、実態的に進め、個別案件について関わりながら進めていきたいと思う。また、講習会・相談会などで、そういう問題に悩み・不安を持った方がたくさんおられるので、できるだけ元気なうちに知ってもらい、任意後見人制度を利用して、将来のことを踏まえて準備ができるよう周知していく。

委 員 市民後見人養成セミナー・養成講座の卒業生数と、実際に後見人を引き受けている件数、相談総数の実績を教えてほしい。

団 体 東葛6市でやっているが、松戸支部だと市民後見人養成講座4回の開催で約160名が受講されている。レベルアップ研修会、スキルアップ研修会も用意しており、実際にすぐ後見人として活動できるよう、後見人担当登録者が10名おり、今年度相談に来られた方が7名、任意後見での活動者が3名いる。平成29年度も同様に活動・相談に対応できる体制は整っている。

6 総評 会長

7 閉会